表題(14pt)

※実践報告の場合

（事例検討）

－副題－(10.5pt)

キーワード：(9pt)

◯発表者名　共同研究者名(9pt)

所属施設名(9pt)

【はじめに】

テーマに含まれる一般的な問題にふれ、本事例をふり返る理由やふり返る視点などを記載する。

【目的】

その看護実践の目的

※必要時、用語の定義を入れる

【事例紹介】

・事例の概要

　　事例とテーマを理解するうえで必要な情報を簡潔に記載する。

・看護上の問題

・看護目標

【倫理的配慮】

（例）A病院倫理委員会の承認を得て行った。対象者には、研究の趣旨、参加は自由意思であること、途中辞退も可能であること、参加の同意が得られない場合や途中辞退による不利益はないことを説明した。データは研究成果を公表したのちに破棄し、研究成果は個人が特定されないように処理をして学会などで公表すること説明した。全てを口頭と文書で説明した後に研究参加の同意を自筆で得た。本研究に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

※本研究を考慮した倫理的配慮を加える。

【看護の実際】

　看護上の問題を解決するために立案したケアの実施の詳細とケアを受けた対象の変化（ケアの結果）を示す記述をする。ケアの結果をどのように評価して、次のケアへと継続させたのか、患者の変化はどのように積み上げられてケア目標へと近づいていったのかを時系列にそって書くことを薦める。

【考察】

　文献を根拠としながら客観的に「ケアの場面では実際はどのようなことがおこっていたのか」を分析し、自分が実践したケアにどのような意味があったのかを述べ、ケアのよかった点や課題について、他文献も検討しながらふり返る。

【結論】

　自己の実践を論理的にふり返った結果として、問題を解決するためのケアにどのような意味が見出せたのか、そしてどのようなことが足りなかったのか、ケアを改善していくためには今後どのような工夫が必要かについて述べる。

引用文献

1）福島花子,郡山太郎,本町一子,他：看護の○○○研究,第○回日本看護学会論文集（看護管理）,p.5-8,2008.

・記載方法は集録原稿作成要領を必ず確認する

・参考文献の記載は必要ない

※福島県各支部の学会・研究会で発表された演題には以下の文を入れる。

本研究は、第〇回○○支部看護研究会で発表されたものである。